

「世界一田めになる学校」in 韓国開催

今年3月に韓国に渡った豊岡生まれのカウントリは、その後も滞在し、来秋に放鳥を計画する同国の多くの人々に温かく見守られています。

そのカウントリに続くように、田んぼと生きものの大切さについて考える子どもイベント「世界一田めになる学校」も海を越えました。

「世界一田めになる学校in韓国」は、生物多様性条約第12回締約国会議（COP12）の会期に合わせて、10月6日に高揚市で開催しました。現地の自治体・団体と宮城県大崎市、新潟県佐渡市、豊岡市の共催です。

本市からは、5人の小学生が参加し、環境保護に取り組み日韓両国の子どもたちと交



▲子どもたちが豊岡市での取組みを発表

流しました。メッセージを書き込んだ記念の旗は、COP12の会場でも披露され、世界中から集まった人たちのもとに届けられました。豊岡で学び、考え、実践してきたことが、韓国へ、世界へ広がっていくことを期待します。

真野副市長は、豊岡からカウントリが渡った金海市を訪問。故盧武鉉大統領の秘書官や地元住民など、多くの人の歓迎を受け、手を携えて歩みを進めていく意志を確認しました。

また、10月14日に開催された、COP12のパラレルイベントでは、日本の自治体を代表して豊岡の取組みを報告。地域づくりと一体的に、農家や企業など、さまざまな人たちと進めている取組みに関心が集まりました。

「男性向けアイロンあて講習会」開催

9月15日、男女共同参画社会づくりモデル地区の祥雲寺区が「男性向けアイロンあて講習会」を開催しました。

講師でクリーニン業を営む衣川克典さんは、クリーニン店と家庭でのクリーニングの違いやドライクリーニグと水洗いクリーニグの違いなどを、実践を交えて分かりやすく話しました。



▲アイロンあての基本を実践で学ぶ

世界初公開！ 新型アンドロイド リプリーS1デモンストレーション

9月27日、城崎国際アートセンターで、新型アンドロイド（人間にそっくりなロボット）リプリーS1のデモンストレーションを行いました。

公募による中学生・高校生が参加し、大阪大学石黒研究室／CSCDの力石武信さんから、アンドロイドの仕組みについて説明を受けました。

一般的なロボットの動きはモニターで行いますが、リプリーS1はエアード動かすので、動きが柔軟で、静粛性に優れ

参加者は、実際にワイシャツなどにアイロンをあてながら、基本を教わりました。

このアンドロイドは、10月4・5日に上演されたアンドロイド版『変身』に出演し、大役を務めました。



▲アンドロイド演劇「変身」の1場面（左は、女優のイラストレーション）

「9月」主な市政の動き

- 12日・神鍋線乗って守ろう市民運動推進協議会決起集会、路線バス活性化運行事業協定締結式
- 15日・豊岡エキシビジョン（17日、東京）
- 17日・東京大学豊岡実習（20日）
- 25日・玄さん元気教室大交流会
- 27日・とよおか景観フォーラム2014（全国町並みゼミ豊岡大会プレゼミ大会）
- 1日・地域おこし企業人交流プログラムでJTB西日本社員派遣受け入れ第69回国民体育大会・第14回全国障害者スポーツ大会の豊岡市出身選手激励会・報告会
- 4日・アンドロイド版「変身」本市で世界初演（5日）
- 2014世界一田めになる学校in韓国（8日、韓国）
- 6日・台風23号メモリアル事業災害写真展（16日）
- 7日・日韓カウントリ野生復帰フォーラム（韓国）
- 8日・とよおか家族の日

「みんなで楽しく健康づくり」が広がっています

「玄さん元気教室大交流会」を開催

「玄さん元気教室」は、現在50の区・団体で実施されています。

9月25日、豊岡市民プラザで、同教室参加者が一堂に会する大交流会を開催しました。

初めに、実践報告やモデル地区での教室実施2年後の血液検査結果発表がありました。

また、グループワークを、テーマごとに三つに分かれて行いました。

テーマ「活動に取り入れてみて、好評だったこと。今後、取り入れてみたいこと」と「活動を継続するために行っている工夫。今後、取り入れてみたいこと」の話し合いでは、

ゲームや歌、コーヒータイムなどを入れ、楽しく参加できるようにする必要性が挙がりました。

「来なくなった人が再度参加できるようにするには」の

テーマでは、普段から声を掛ける、イベントで呼び掛けるなどの意見が出ました。



▲熊本大学教授の都竹茂樹さんの指導で、全員でスクワット

「テーマは「昭和の豊岡を歩く」

「とよおか景観フォーラム2014(全国町並みゼミ豊岡大会)プレゼミ大会」開催

全国町並みゼミは、歴史的な集落や町並みで、歴史を活かしたまちづくりに取り組んでいる全国の地元団体と特定

非営利法人の全国町並み保存連盟が毎年開催しています。

平成27年に本市で開催される「第38回全国町並みゼミ豊岡大会」の開催に先立ち、9月27日にプレゼミ大会を開催しました。

参加者は、豊岡中心市街地の復興建築群や寿口ロータリー

など、歴史あるまち並みを、説明を聞きながら歩きました。

また「とよおか景観大賞2014」の発表や全国町並みゼミの紹介、豊岡中心市街地の活動報告が行われました。

ワークショップでは「昭和の豊岡を活かすために私たちができる事」をテーマに、参加者が、まち並みを歩いて気が付いたことや、印象に残ったことを基に、まちの活性化

につながるさまざまなアイデアを出し、活発な意見交換を行いました。



▲ワークショップの様子

中貝市長の徒然日記 84

6人のフランスの友人たち

平田オリザさんらの、1カ月にわたる城崎国際アートセンターでの日仏共同制作が終わり、フランス人俳優らも次の舞台へと旅立っていきました。

原作・カフカの「変身」は、主人公が朝起きたら大きな毒虫に変わっていたという物語ですが、平田版「変身」はアンドロイド(ロボット)に変わっていたという設定です。外見は人間ではないけれど息子(兄)の自我を持つアンドロイドに、戸惑いながらも、受け入れていく家族。

人間が人間であるゆえんは何なのか。脳なのか、意識、感情なのか。「人間とは何か」に迫る素晴らしい演劇でした。

それは同時に、家族の物語でもありました。アンドロイドを、例えば寝たきりの家族や何か罪を犯してしまった家族に置き換えることもできます。昨日までと明らかに違うけれど、なお家族である。

家族の一員が突然アンドロイドに変わってしまうかのよ

うに、人生には不条理なさまざまなことが起きます。時としてそれはとても厄介です。しかし、私たちはそれを受け入れ、耐え、なお人生を肯定しながら生きていくほかはありませぬ。その姿が、私には

いとおしくさえ感じられます。この1カ月、象徴的にうれしかったこと。まず、平田さんが自転車を買われたこと。これから何度も来るよ、と。

次に、9月中旬、俳優のジェローム・キルシャーさんと東京に行ったとき、「早く城崎に帰りたい」と言われたこと。

俳優たちに辞令を交付しました。「あなたは豊岡市に滞在し、温泉を楽しみ、狂言を鑑賞し、お寿司を食べ、浴衣で温泉街を散策されるなど、大いに豊岡の暮らしを楽しまれました。よって、あなたは、

帰国後も豊岡の良さを人々に伝え続ける責務を負っているものと考えます。豊岡市長は、愛を込めてあなたを豊岡市の(駐フランス)大使に任命いたします」

豊岡生まれの「変身」は、これから世界を駆け巡ります。